

# みえきた持続水田農業協議会

## 環境にやさしい業務用米栽培マニュアル

令和6年 3 月作成

### 1. 育苗

#### ① 種子消毒(温湯消毒法)

60℃で 10 分間浸漬する。気温が寒いと湯温が下がりやすいので注意する。  
温湯浸漬処理終了後、ただちに種子を低温水で冷却する。(ただし、10℃以下の水温では冷却しない。)

#### ② 浸種

「なついろ」「みえのゆめ」

積算温度の目安 100℃以上

10～15℃で7日～10日間浸種する。

「にじのきらめき」

積算温度の目安 120～135℃

10～15℃で10日～13日間浸種する。

浸種初期の 10℃以下の低温は発芽率の低下を招くので注意する。

出芽揃いを良くするため、浸種期間は十分に確保する。

#### ③ 催芽、播種、出芽、緑化、硬化

通常の育苗管理により行う。

### 2. ほ場準備

① 稲わらの早期全量すき込み または 冬期の堆肥散布により土づくりを実施。

② 牛ふん豚ふん混合堆肥を散布する場合、基肥窒素の補完が期待できるため、  
施肥設計を検討する。(基肥化学肥料を削減する。)

### 3. 施肥

① 施肥総窒素量の目安 12 kg/10a

#### ② 分施体系

(1) 基肥

窒素7～9kg/10a

牛ふん豚ふん混合堆肥を散布した場合、20%程度削減可能

(2) 穂肥

「なついろ」「みえのゆめ」

1 回目 出穂20日前 窒素2～3kg/10a

2 回目 出穂10日前 窒素0~2kg/10a

「にじのきらめき」

1 回目 出穂30~25日前 窒素2~3kg/10a

2 回目 出穂14日前 窒素0~2kg/10a

(ザルビオを活用して穂肥適期を判断する。また、対応可能なほ場では可変施肥を実施する。)

### ③ 基肥一発体系

#### (1) 基肥

窒素10~12kg/10a

牛ふん豚ふん混合堆肥を散布した場合、低PK肥料へ変更可能

基肥一発+追肥施用の場合、基肥一発20%削減可能

#### (2) 追肥

出穂10日前 窒素1~2kg/10a

(ザルビオを活用して穂肥適期及び穂肥の要否を判断する。また、対応可能なほ場では可変施肥を実施する。)

## 4. ほ場管理

### ① 田植え時の栽植密度

50~60株/坪

分けつを確保するため、極端な疎植は控える。

### ② 水管理

田植え後1か月程度で茎数20本/株程度になったら中干しを開始する。

通常(小ひびが入る程度まで7日間程度)に加えてさらに7日間水尻を落としたままにし、合わせて14日間で中干しを行う。

(中干し期間はザルビオ入力記録または作業日誌で確認)

出穂25日前(幼穂形成期)には入水し、収穫直前までほ場を白く乾かさない。できる範囲で夜温を下げる水管理を。

落水は登熟向上のためできるだけ遅らせる

## 5. 除草管理

除草剤の効果を高めるため、代かきは丁寧に。

## 6. 病虫害防除

### ① いもち病

本田防除実施

### ② 斑点米カメムシ →2回防除を実施

1回目 出穂期(5割出穂) 目的:不稔による収量減を防ぐ

2回目 1回目の12~14日後 目的:斑点米の発生を防ぐ

#### 7. 収穫時期

「なついろ」出穂後積算平均気温 880~1000℃ 出穂後約32~36日

「にじのきらめき」出穂後積算平均気温 1050~1200℃ 出穂後約43日

「みえのゆめ」出穂後積算平均気温 960~1050℃ 出穂後約38日